



第2回佐倉市文化財保存活用地域計画策定協議会
令和4年8月18日 佐倉市立中央公民館 大ホール

佐倉市の歴史文化と将来像について

佐倉市教育委員会文化課



はじめに 一本日確認・検討すること

【テーマ1】

あなたが考える佐倉市の歴史文化の特色・魅力は何か？

- ・ 「歴史文化」の位置づけについて
- ・ 佐倉市の歴史文化の概要
- ・ 【検討】あなたが考える佐倉市の歴史文化の特色・魅力は何か？

【テーマ2】

だれのための将来像（ビジョン）なのか？

- ・ 計画における将来像（ビジョン）の位置づけについて
- ・ 【検討】だれのための将来像（ビジョン）なのか？
- ・ 【参考】文化財保護にかかわる課題

はじめに 一本日確認・検討すること

▶ 検討方法はワークショップ形式

- ・ 素案作成の参考となるアイデアを提供してもらうことが狙い
→ 今回の協議会で何らかの結論を出すものではない。
- ・ 各々の委員の率直な意見を多くお聞きしたいため
- ・ 委員の意見を事務局・委員間で共有しやすくなる



【テーマ1】

あなたが考える佐倉市の歴史文化の
特色・魅力は何か？

「歴史文化」の位置づけについて

◆ 「歴史文化」とは何か？

→ 歴史的に培われてきた地域の個性、地域らしさ。
その地域らしい文化財行政の歩みを再確認。

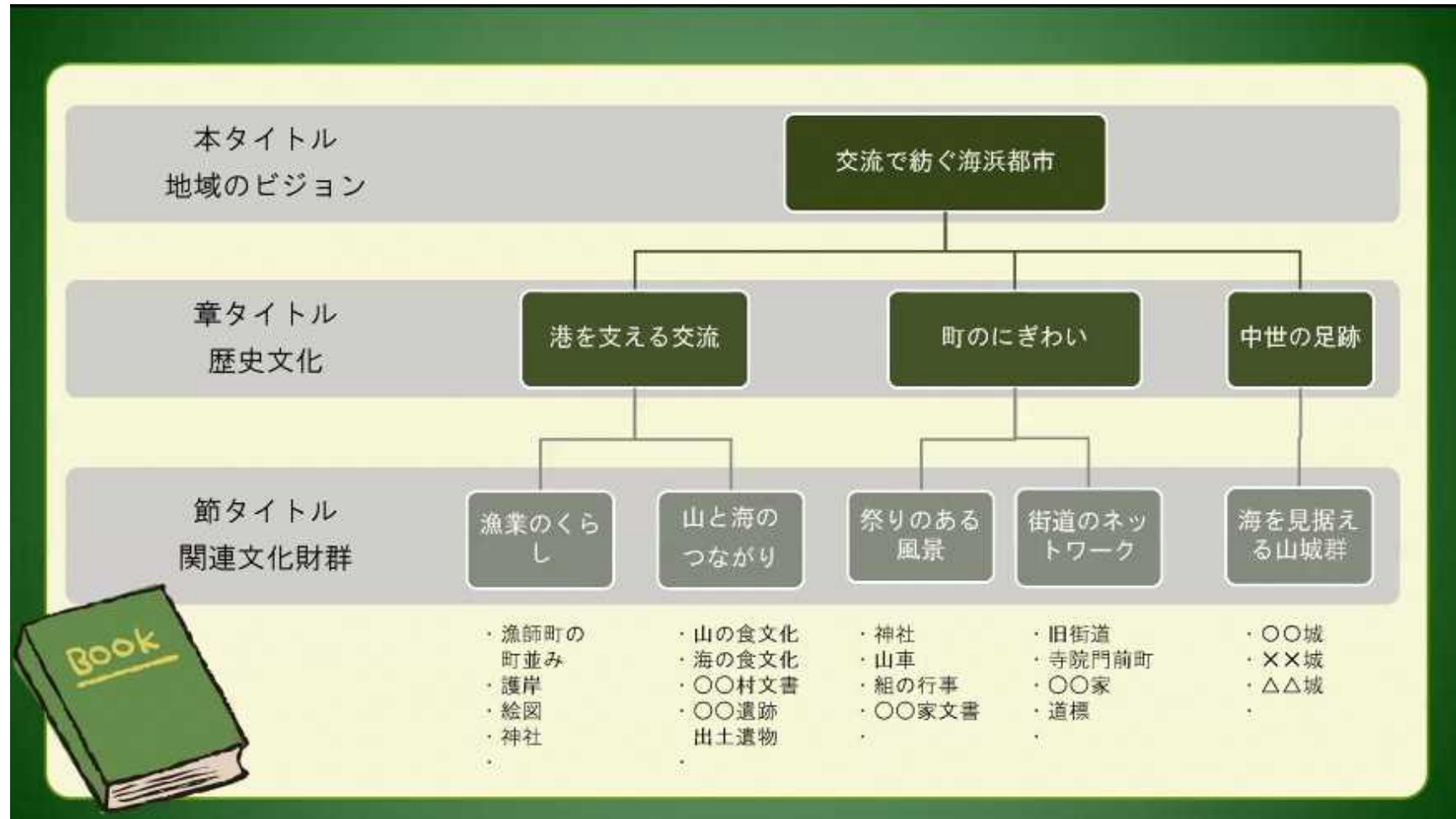
◆ 計画中での考え方

地域は複数の「顔」を持つ

→ 一つではない、複数の歴史文化によって地域を語る。

「歴史文化」の位置づけについて

◆本の構成に例えると…



他市の事例（滋賀県近江八幡市）

近江八幡市の歴史文化の特徴

琵琶湖・内湖の自然が育んだ歴史文化

琵琶湖最大の島である沖島やヨシ原が広がる風景は、琵琶湖の原風景ともいえるべきものであり、琵琶湖畔や西の湖一帯の文化的景観として、その景観が保全されています。

陸の道・湖の道がつなぐ歴史文化

琵琶湖に面した地理的環境は、東山道（中山道）や朝鮮人街道などの街道や湊・浦など陸上・湖上交通の発達を促し、武佐宿をはじめ交通の要衝を形成しました。

湖東に華開く多様な仏教世界の歴史文化

中世観音信仰の一大拠点であった長命寺、山岳修験の舞台となった伊崎寺、浄土真宗の寺院など、今に至る多様な仏教世界が展開され、この地の信仰を特徴づけています。

近世都市の先がけ～六角・信長・秀次の城と城下の歴史文化

佐々木六角氏の観音寺城、織田信長の安土城、豊臣秀次の八幡山城と、近世都市の形成過程を示す為政者の城づくり・都市づくりの遺産が集積する、全国的に貴重な地域です。

自治の伝統とまちづくりの歴史文化

近世の八幡商人や、近代のW・M・ヴォーリスの活動の根底にある自治と社会貢献の精神は、本市の教育文化を育み、市民主体のまちづくりに脈々と受け継がれています。

地域に受け継がれるむらづくりの歴史文化

地域の暮らしと発展を支えた村々は、ほぼそのまま現在の町に継承されており、祭りや行事、伝統産業など独自の歴史文化が、現在の地域づくり活動に活かされています。



他市の事例（福井県小浜市）

小浜市文化財保存活用地域計画

基本理念： 御食国若狭の継承、そして発展

テーマ1
自然とともに生き
続ける文化と景観

テーマ2
海と都を結ぶ文化の交流

テーマ3
食と民俗を育んだ
まち・むら

関連文化財群1
人と自然との
たゆまぬ共生

関連文化財群2
御食国
若狭の成立

関連文化財群3
神仏習合の
社寺と暮らし

関連文化財群4
京へつながる
鯖街道

関連文化財群5
海に開かれた
小浜城下町

【将来像(目標)】

本計画の推進により、小浜市の文化財が着実に次世代に継承されるとともに、歴史的景観が保全され、小浜のブランド価値が高まり、文化財とより共生するまち・暮らしが広がる状態を目指します。

佐倉市の歴史文化の概要

◆ 5つの佐倉市の歴史文化

- ① 印旛沼と佐倉の遺跡
- ② 古東海道沿いに花開いた佐倉の仏教文化
- ③ 中世武家の興亡と佐倉
- ④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉
- ⑤ 地域で継承される祈りの諸相

① 印旛沼と佐倉の遺跡

◆内容

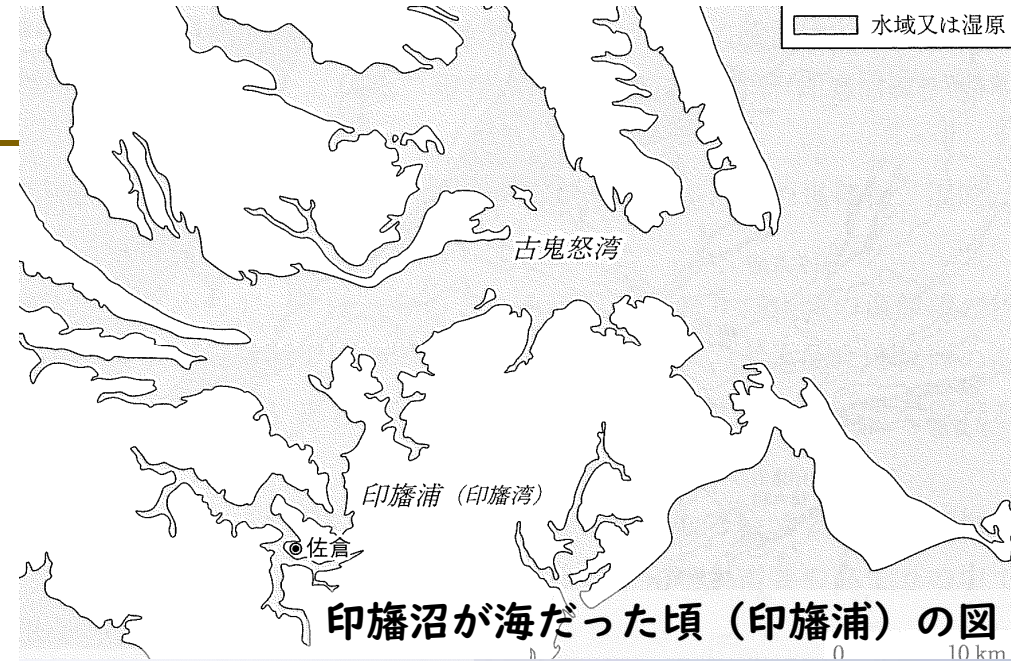
印旛沼は、周辺に暮らす人々に大きな恩恵を与え、日々の衣食住の生活基盤となった。これに加え、他地域との交流、交易において密接な関係にあった。

各時代に印旛沼周辺域固有の文化が醸成された。これを「印旛沼文化」として捉えることができ、このことが数多く分布する遺跡と遺物を通して知ることができる。

① 印旛沼と佐倉の遺跡

▶ 印旛沼と大規模集落

- ・ 約9千年前、印旛沼が海だった縄文時代、入江奥の台地上に上座貝塚や間野台貝塚に代表される貝塚が形成された。
- ・ 約3千年前、徐々に海退し汽水化した頃、印旛沼南岸には地域の核となる大規模な集落が形成。井野長割遺跡や吉見台遺跡がその代表格。
- ・ 弥生時代になると、印旛沼を眼下に臨む江原台の台地に大規模な集落が出現し、以後奈良・平安時代まで断続的に集落が営まれるようになる。



吉見台遺跡出土土偶群



① 印旛沼と佐倉の遺跡

▶遠隔地との盛んな交流

- ・これらの遺跡は、印旛沼とそこに注ぐ鹿島川や手繰川などの河川を背景に育まれた豊かな自然とそこに生息する動植物を対象とした狩猟・採集・漁労活動によって繁栄した原始古代の人々の生活を物語っている。
- ・また、丸木舟による水上交通を利用し、遠隔地との盛んな交流があったことがうかがえる。縄文時代においては、石器の石材のほか土偶や土器などが県外から持ち込まれている。



注口土器



遮光器土偶

① 印旛沼と佐倉の遺跡

▶ 「印旛沼文化」の醸成

- 各時代に「印旛沼文化」と捉えることができる固有の文化が醸成される。
- 弥生時代、県内では最古級の「再葬墓」が印旛沼東岸に出現。印旛沼南岸を中心とする限られた範囲に「臼井南式」と呼ばれる特徴的な土器が分布する。また、六崎大崎台遺跡は「環濠集落」の東限。
- 古墳時代には、印旛沼から手賀沼、霞ヶ浦一帯に広がる内海に面した台地上に数多くの古墳が分布。「常総型石枕」と呼ばれる当地域に特徴的な形態をなす副葬品が分布する。



六崎大崎台遺跡



臼井南式土器



常総型石枕

① 印旛沼と佐倉の遺跡

▶ 軍事戦略的にも重要な位置に

- ・ 古墳時代から中世、近世に移行する過程で、印旛沼は生業面だけでなく軍事戦略的にも重要な位置を占めるようになる。
- ・ 印旛沼沿岸の台地上に数多くの城館・砦跡が分布するのも、その辺りの事情を示している。



本佐倉城跡



白井城跡

② 古東海道沿いに花開いた佐倉の仏教文化

◆内容

東京湾から香取海を越えて常陸国を結ぶ道路は古東海道と呼ばれ、佐倉市域を南北に延びる現在の国道51号線に近いルートが想定され、沿線上に多くの仏教関連の遺跡が見つかっている。

古東海道を介して、当時の最先端の文化や技術がもたらされた佐倉は、交通の要衝として栄えた場所であり、印旛地域の仏教信仰の中心地として繁栄を迎えた。



新羅から伝来したと考えられる銅鉢（高岡大山遺跡）

② 古東海道沿いに花開いた佐倉の仏教文化

▶ 仏教文化の浸透

- ・ 仏教信仰に関わる中心的な遺跡である奈良時代創建の長熊廃寺は瓦葺の寺院で、出土した「高正寺」の墨書土器から当時は高岡寺と呼ばれていた。
- ・ 近隣の高岡新山遺跡では、成人男性の火葬骨が納められた灰釉陶器蔵骨器が出土しているが、火葬は仏教の葬法であり、仏教文化の浸透を見ることができる。



長熊廃寺跡



蔵骨器（高岡新山1号墳墓）

② 古東海道沿いに花開いた佐倉の仏教文化

▶ 墨書土器の一大出土地

- ・ 隣接する高岡大山遺跡は役所のような公的機関であった可能性があり、「寺」「神屋」など600点以上の墨書土器が発見された佐倉市を代表する遺跡である。
- ・ 古東海道沿いには他にも八木山ノ田遺跡で「仏面墨書土器」が発見され、南広遺跡では墨書土器「佛」、六拾部遺跡では墨書土器「白井寺」、瓦塔などの仏教に関わる多くの遺物が出土している。



仏面墨書土器（八木山ノ田遺跡）

② 古東海道沿いに花開いた佐倉の仏教文化

▶技術と物流の要衝

- ・ 坂戸遺跡群では「坂津寺」の墨書土器の他、牛馬や木製品に用いたと考えられる鉄製の焼印が出土。佐倉市に存在したとされる「鳥取駅家」周辺での馬の飼育や所有に関わる遺物であった可能性がある。
- ・ 古東海道から少し南の内田端山越遺跡は仏教色の強い遺跡でありつつ、須恵器製作集団が住んでおり、須恵器窯跡や集落から出土した「寺」の刻印土器の存在は、須恵器生産に寺が関与したことを示している。



② 古東海道沿いに花開いた佐倉の仏教文化

▶技術と物流の要衝

- ・その製品の出荷には鹿島川の水運と古東海道の陸路を利用したと考えられ、他にも古東海道沿いの遺跡からは、役人が身に着けた帯金具や地域間交流を示す搬入土器が集中して見つかっている。



③ 中世武家の興亡と佐倉

◆ 内容

中世の佐倉は千葉氏をはじめとする武家が台頭し離散集合を繰り返しながら、近世の全国的な統一政権の樹立の中に向かっていった。

佐倉市内にはこうした中世の武家の興亡とその記憶に関わる文化財が多く残っている。

此地生谷城上杉
址此政杉
云ア高野
附城ノ井



③ 中世武家の興亡と佐倉

▶ 千葉氏の台頭と臼井氏

- ・ 鎌倉幕府の成立にともない千葉常胤が有力御家人の地位を確立。
- ・ 千葉氏の台頭により、勢力を失った臼井氏は南北朝時代の興胤（おきたね）の代に臼井の地を安堵され、中興の祖に。
- ・ 臼井城の基礎が築かれたのもこの頃と考えられている。
- ・ 「宝樹院のサザンカ」「阿多津の碑」など興胤の伝承が繰り返し語られる。



宝樹院のサザンカ

③ 中世武家の興亡と佐倉

▶ 千葉氏の分裂と戦国の動乱

- ・ 享徳3年（1454）の「享徳の乱」により、諸勢力が分裂し関東は戦国時代に。
- ・ 千葉氏やその家臣も分裂し、本拠を「本佐倉城」に移す。
- ・ 本佐倉城下は市が建てられにぎわい、勝胤によって佐倉歌壇とも呼ばれる文化的なネットワークが形成される。
- ・ 臼井城では2度の大きな合戦があり、時代とともに縄張りが拡張され「臼井田宿内砦」などの支城も築かれた。



伝千葉勝胤肖像

③ 中世武家の興亡と佐倉

▶ 徳川家康の入封と佐倉

- ・ 天正18年（1590）に小田原北条氏が滅亡、北条方についていた千葉氏・原氏も命運を共にする。
- ・ 代わって関東を支配した徳川家康の家臣や一門が佐倉市域に配置され、佐倉を支配していた領主も大きく変化。
- ・ 北条氏の一族で玉縄城主であった北条氏勝は、家康の家臣となり、弥富原氏に代わって岩富城主に。宝金剛寺に厚く帰依し様々な寄進を行う。

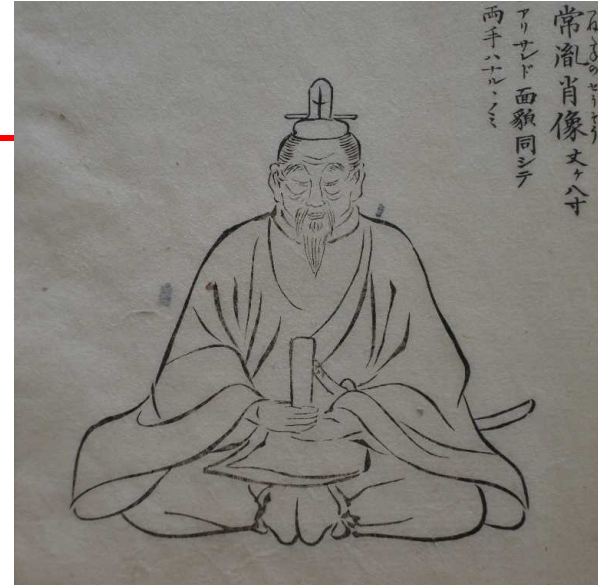


三鱗紋蒔絵四重椀（「岩富城主北条氏勝寄進資料」）

③ 中世武家の興亡と佐倉

▶ 中世城郭の廃城と記憶の継承

- ・ 家康が全国的な支配を進めると佐倉市域の中世城郭は徳川家の家臣団の再配置にともない廃され、新たな泰平の時代へと転換していった。
- ・ 佐倉の中世武家の興亡に関わる逸話は、近世にまとめられた地誌・記録類に様々なかたちで語られていった。
- ・ こうした記憶は記念碑や史跡といった場を通じて現在に至るまで語り継がれ、地域の歴史文化を捉えるうえで欠かせない要素となっている。



千葉常胤肖像
(成田名所図会より)



謙信一夜城の碑

④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉

◆内容

慶長15年（1610）に佐倉の領主となった土井利勝は、翌年より約7年をかけて佐倉城を築いた。

佐倉城は江戸の東の要衝として位置づけられ政治的にも軍事的にも江戸を支えた。

築城と同時に城下も整備され、江戸とは成田街道（佐倉道）により結ばれた。

佐倉は城下町として江戸を支え、影響を受けながら発展していった。

④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉

▶城と城下のなりたち

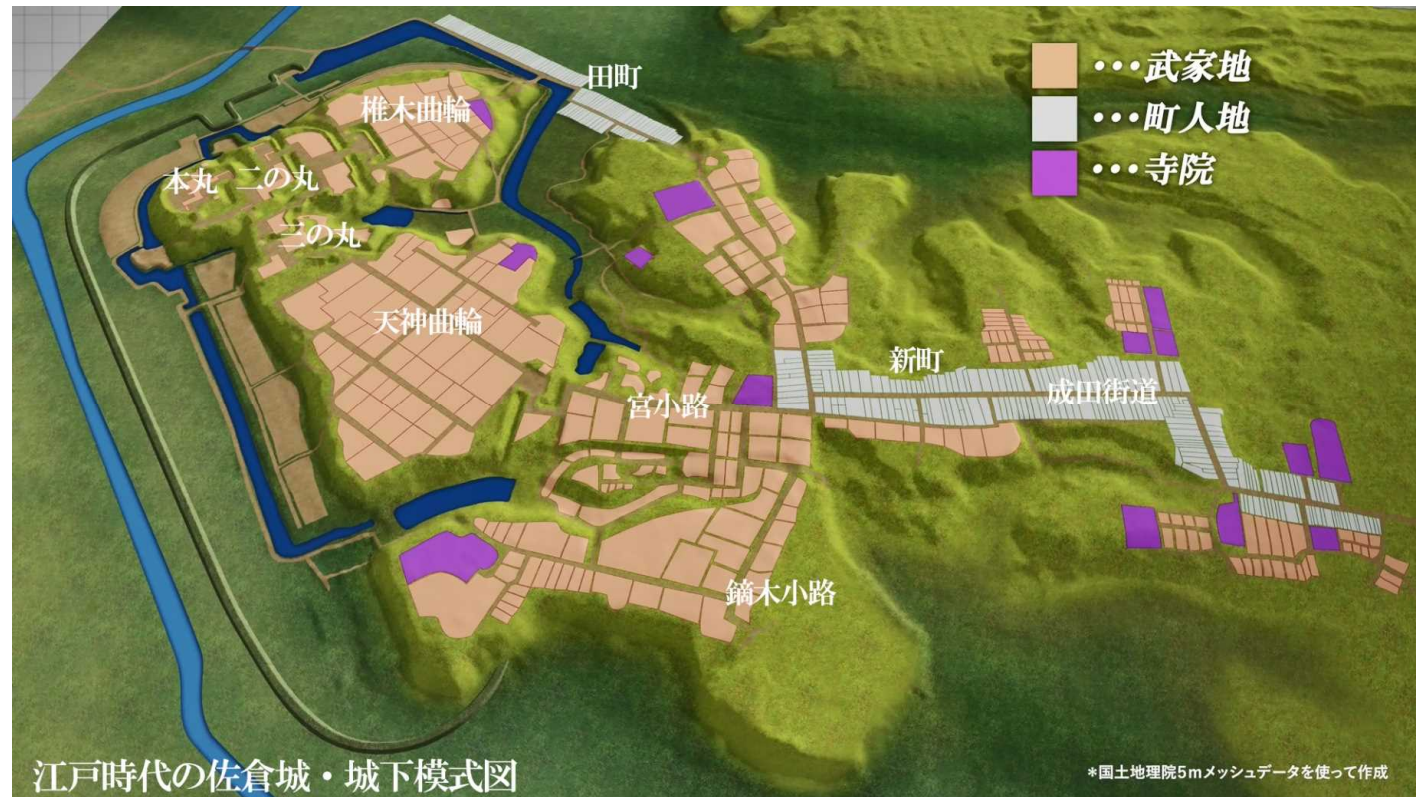
- ・佐倉城は新しい時代の展開に対応するため、政治・経済的にも領土の中心にふさわしい場所に築城された。
- ・佐倉城の設計は、石垣を用いず、土塁と空堀・水堀を巧みに配置し守りを固め、近世の城普請の集大成のひとつに数えられる。



4 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉

▶城と城下のなりたち

- ・ 大手門東の宮小路、鐺木小路、並木町などに武家地が置かれ、宮小路の東に新町、城の北に田町といった町人地を配置。
- ・ 鐺木小路には、「旧河原家住宅」「旧但馬家住宅」「旧武居家住宅」に代表される武家屋敷が残る。
- ・ 城下町には、江戸と成田を結ぶ成田街道（佐倉道）が通り、参勤交代や年貢米の輸送に用いられるほか、江戸から成田山への参詣客で賑わうようになった。



④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉

▶江戸時代の佐倉を今に伝える文化財

- 当時の道筋、地割をよく残していることが江戸時代に描かれた「佐倉城大絵図」をはじめとする絵図群との比較によりうかがえる。
- この町並みには、近世より佐倉で活躍していた平井家の店舗兼住宅である「旧平井家住宅」や「旧今井家住宅」といった商家住宅も現存。
- 土井利勝によって創建された松林寺や堀田正睦が社殿を造営した麻賀多神社等当時より信仰を集めた神社仏閣も残る。



佐倉城大絵図



松林寺本堂

④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉

▶ 蘭学の先進地としての佐倉

- ・「旧佐倉順天堂」が佐倉順天堂記念館として整備・公開。医史学関係資料を展示。
- ・藩校成徳書院を前身にもつ県立佐倉高等学校には藩校時代の貴重書を含む「鹿山文庫関係資料」が所蔵され、一部が地域交流施設で展示されている。



④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉

▶佐倉連隊と城の再利用

- ・明治初期には城内の建物が取り壊され、佐倉城は陸軍歩兵連隊の兵営所として再利用されたことにより、城下町も連隊のまちへと役割を替えた。
- ・この頃、町の人々はかつて江戸で使われていた江戸型山車を購入し引き廻しを行い、江戸で失われた祭礼文化が佐倉で受け継がれた。

▶佐倉と堀田家

- ・「旧堀田邸」や甚大寺「堀田家墓所」など長く佐倉を治めた堀田家に関わる文化財も多く残る。甚大寺の金毘羅縁日なども含め、現代においても佐倉の人々に親しまれている。



佐倉連隊兵営所航空写真



明治28年歩兵第二連隊招魂祭山車写真

④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町佐倉

▶文化・教育・憩いの場としての佐倉城

- ・ 第二次世界大戦後、兵営所は解体され、佐倉城址公園、国立歴史民俗博物館、佐倉中学校、佐倉東高校などが置かれ、城は文化・教育・憩いの場として姿を変えた。
- ・ 城の遺構は、現在も良好な状態で残っており、日本100名城に選定されるなど高く評価されている。



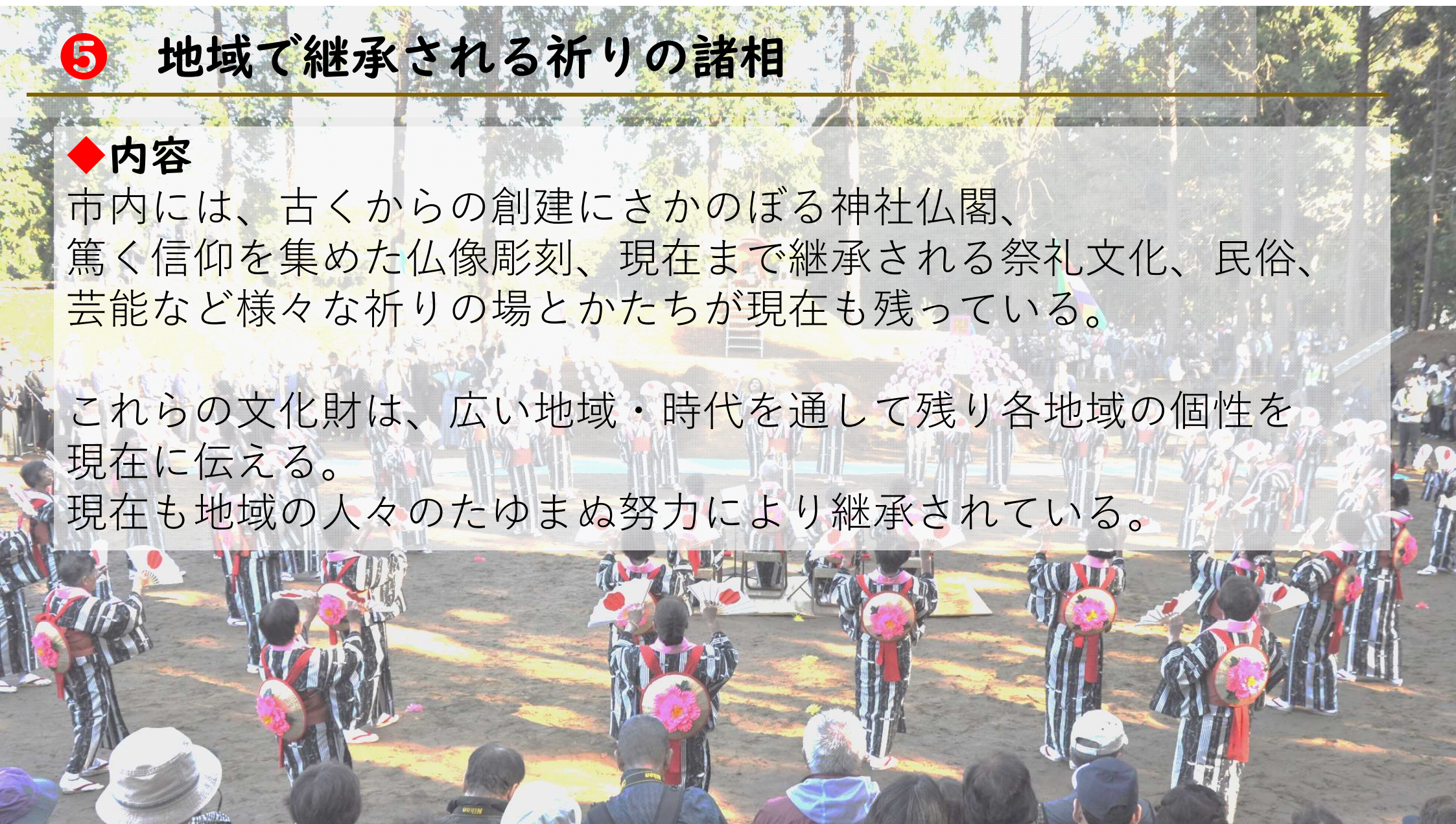
⑤ 地域で継承される祈りの諸相

◆内容

市内には、古くからの創建にさかのぼる神社仏閣、篤く信仰を集めた仏像彫刻、現在まで継承される祭礼文化、民俗、芸能など様々な祈りの場とかたちが現在も残っている。

これらの文化財は、広い地域・時代を通して残り各地域の個性を現在に伝える。

現在も地域の人々のたゆまぬ努力により継承されている。



⑤ 地域で継承される祈りの諸相

▶古くからの創建を今に伝える寺社仏閣

- ・ 十八麻賀多とよばれ佐倉市内や隣接する市町村に18社鎮座する「麻賀多神社」や「大佐倉八幡神社」「鷲神社」「将門山大明神」「大聖院」などが知られている。
- ・ 江戸時代、城下には「松林寺」「甚大寺」、各地区を代表する「密蔵院薬師堂」「上志津の神社と社叢（八幡神社・天御中主神社）」など、多くの寺院が開かれその様相を今に伝える寺社建築も残っている。



大佐倉八幡神社



密蔵院薬師堂

⑤ 地域で継承される祈りの諸相

▶祈りのかたちとしての仏教彫刻

- ・これらの信仰の場には、「木造大日如来坐像（大聖院蔵）」など中世にさかのぼる様式を示すものも。
- ・また「木造金剛力士像（玉泉寺蔵）」など鹿島川や寺崎川といった川との関わりで語られる仏像彫刻なども確認されている。



木造大日如来坐像（大聖院蔵）



木造金剛力士像（玉泉寺蔵）

⑤ 地域で継承される祈りの諸相

▶城下町佐倉の祭礼文化

- ・ 秋には「麻賀多神社神輿渡御」を母体とする佐倉の秋祭りが行われている。
- ・ 祭りでは、かつて江戸で使われていた江戸型山車や佐倉独自の御神酒所（踊り屋台）の引き廻される。
- ・ 引き廻しでは、江戸囃子の流れを汲む「佐倉囃子」の演奏で盛り上がりを見せている。



⑤ 地域で継承される祈りの諸相

▶ 地域の一大会事としての民俗文化財

- 佐倉の秋祭りのほか、城麻賀多神社神輿の巡幸、先崎鷲神社の神輿渡御など江戸と佐倉独自の祭礼文化の要素が交じり合った祭礼が現在も盛んに行われている。
- 中世を起源とする「坂戸の念仏」は、現在も坂戸地区の女性たちによって念仏講が組織され、33年に一度の「大十夜」は宗派の別なく地区の一大会事として受け継がれている。



⑤ 地域で継承される祈りの諸相

▶ 農村の伝統的な生活文化を今に伝える

- ・ 「青菅のどんどれえ」「弥富のどんど焼き」など小正月に行われる行事も継続して実施されている。
- ・ 和田地区の農村の伝統的な生活文化を伝える「和田地区民俗資料」なども残っている。



【テーマ1】あなたが考える佐倉市の歴史文化の特色・魅力は何か？

◆ 5つの佐倉市の歴史文化をもとに全体の特色・魅力をまとめる

- ・ 幅広い時代に関する歴史文化、文化財が分布…
- ・ 地理的な要因による特色…

→ 様々な目線からどういった点に特色・魅力があるのかを具体的に検討する。

- ・ 今後の作業（将来像の設定、具体的な措置の検討）で必要となる重要な素材。

【テーマ1】あなたが考える佐倉市の歴史文化の特色・魅力は何か？

- これまでに挙げた5つの佐倉の歴史文化を受けて、

◆あなたは佐倉の歴史文化の どこに魅力を感じますか？どこが素晴らしいと思いますか？

を別紙の「シート①」にご記入下さい。

- * 時代・地域・文化財の類型に限定してもよいですし、しなくても構いません。
- * ご自身が特色・魅力と感ずることを自由に書き出してください。

シート① あなたが考える佐倉市の歴史文化の特色・魅力は何か？

【記入者名： _____】

- ◆あなたは佐倉の歴史文化のどこに魅力を感じますか？どこが素晴らしいと思いますか？

- * 時代・地域・文化財の類型に限定してもよいですし、しなくても構いません。
- * ご自身が特色・魅力・強みと感ずることを自由に書き出してください。

ワークショップの進め方

2つのテーマについて、次の第1～4ラウンドを通じて意見交換を行います。

ラウンド	内容	時間
第1ラウンド 『テーマについて探求する』	自己紹介・会話	15分
第2ラウンド 『アイデアを共有し深める』 ①	自己紹介・テーブル紹介・会話	15分
第3ラウンド 『アイデアを共有し深める』 ②	自己紹介・テーブル紹介・会話	15分
第4ラウンド 『集合的な発見の収穫・共有』	全体を（少しだけ）まとめよう	10分

ワークショップの進め方

◆第1ラウンド 『テーマについて探求する』

- ① 4~5人のグループに分かれる。
一言自己紹介し、委員はシートをもとに話をする（約2分）
- ② その後、テーマに沿って自由に意見交換。
相手の出したアイデアを否定しない。
- ③ メンバーの話を聞いている際には、
机の模造紙に自由に書き出しながら、トークを続ける。
- ④ グループのうち文化課職員だけを残し、委員は別の机に移動

ワークショップの進め方

◆第2・3ラウンド 『アイデアを共有し深める』

- ① 残った1人がそのテーブルで出たアイデアを新しいメンバーに紹介する。
- ② 移動してきた新しいメンバーは、前のテーブルの話をしながらか、さらに自由に意見交換をする。
- ③ 第1ラウンドと同じく、出た意見を模造紙に書き出しながらかトークを続ける。
- ④ 再度、グループのうち文化課職員だけを残し、委員は別の机へ。

ワークショップの進め方

◆第4ラウンド 『集合的な発見の収穫・共有』

- ① 模造紙を回収して全体で見て共通するアイデアや面白いアイデアを見つける。
- ② 出たアイデアについて、どのようなものか
司会がメンバーに質問して皆でその内容を共有する。
- ③ アイデアを共有し、次のテーマの参考とする。

自由な意見交換のために・・・

◆ 対話を楽しむ、否定しないで受け止める

無理に結論をまとめる必要はありません。

その場に出てくる話題と参加者との対話を楽しみましょう。

◆ 議論の場ではありません。

多様な意見を受け入れ、それに触発される自分自身を楽しみましょう。

◆ 「言いだしっぺ」の法則はありません。

自分が出したアイデアだからといって、

その詳細な検討を押し付けられるわけではありません。

安心して色々なアイデアを出していきましょう。

自由な意見交換のために・・・

◆話をよく聴く、「質問」して広げる

話すばかりではなく、他の人の話によく耳を傾けましょう。
わからないことがあれば質問してみましよう。
質問することで理解が深まり対話が広がります。

◆アイデアや思いついたことを書く・描く・つなぐ

思いついたことや話したいことなどのキーワードを書いたり
絵を描いたりしながら対話を残していきましょう。
突飛なアイデアでも、線でつないで関係を示すと
新しい発見があるかもしれません。

自由な意見交換のために・・・ (シートの例)

*北総四都市江戸紀行の使命を考える

記入者名: 成田市 永川

・「だれ」のために？

地元の子ども・若者

・その相手にどうなってほしいか？

日本遺産(北総四都市)であること当たり前認識し、

保護活動、能動的

自由な意見交換のために・・・ (シートの例)

*北総四都市江戸紀行の使命を考える

記入者名:

糸原 希

・「だれ」のために？

北総四都市の住人、会社員、出掛ける人、夏休みに帰る人、
in hand 立ち回り、自命を命じた。

・その相手にどうなってほしいか？

みんなの笑顔、カキカキ、また、四都市の
再会に、みんな、カキカキ、そして、四都市の
思い出を見つめてほしい。

自由な意見交換のために・・・ (模造紙の例)

シリアル型の強み
流れがつかえる通りが
良文化はキャッチー

温泉

◆北総四都市江戸紀行の強み・
地域資源の特色は何か改めて考え直す

ストーリーを
つなぐ

「たけにもおる
地元の人がおる」

4つの都市
「バラバラ」

ストーリーのつなぎ=観光客に
「倉文化」
例) 伊達巻

一つだけの方が
まとまりやすい。

観光にのっとる

イベント

第一回

2016年

北総

ポスターを
外から見たら
どうなのかな?

世界に一番近い江戸
空港が1つ
何處小江戸
Prize強み
首都圏近い

北関東
観光地の移動手段
120km/h
電車

来客
中野
Tosca
運送
↑
↓
↑
↓
↑
↓
↑
↓

見どころはない?
外見は
全国的な
四市それぞれの特徴
により、形態
だいたい
統一

「X」P
電車
☆夜

川と道
つなぐ
言葉に
来るとはいいかい?



四つまちの完成
水
運

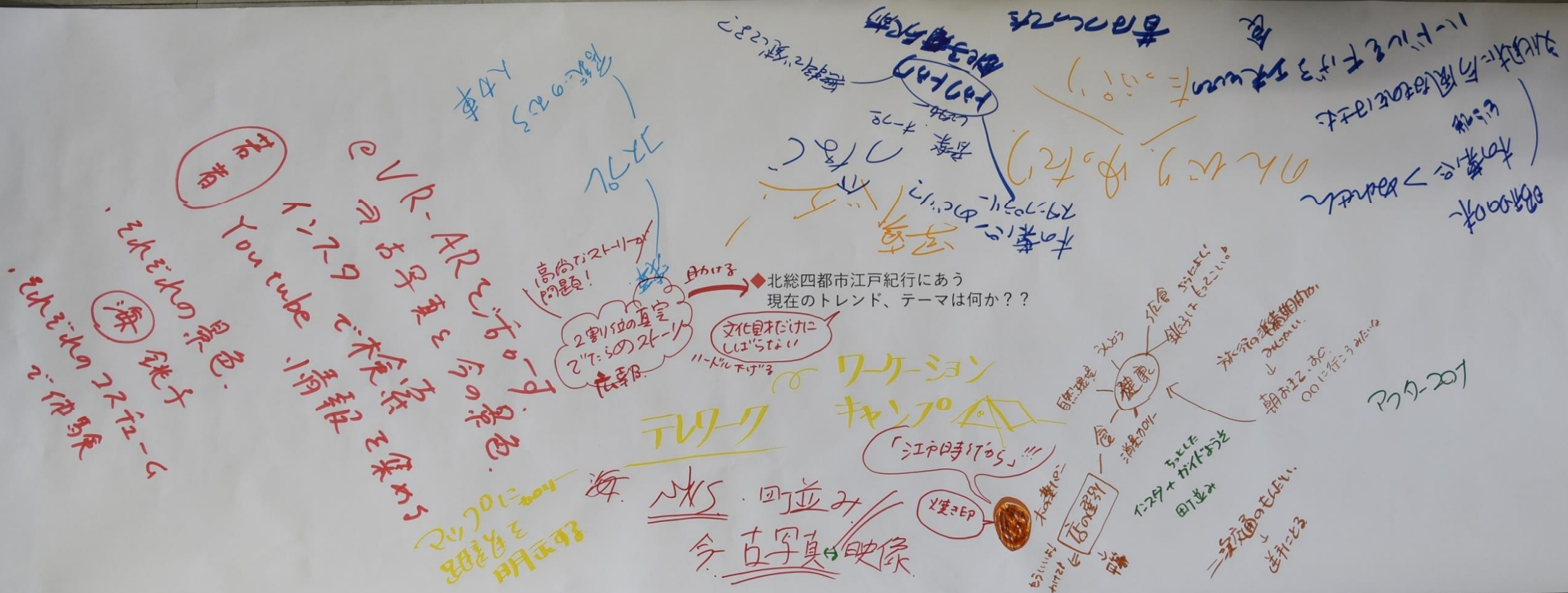
舟
運
取
回

お祭り
四市
PR
おはやし
おはやし
おはやし

せんべい
おはやし
おはやし
おはやし
おはやし



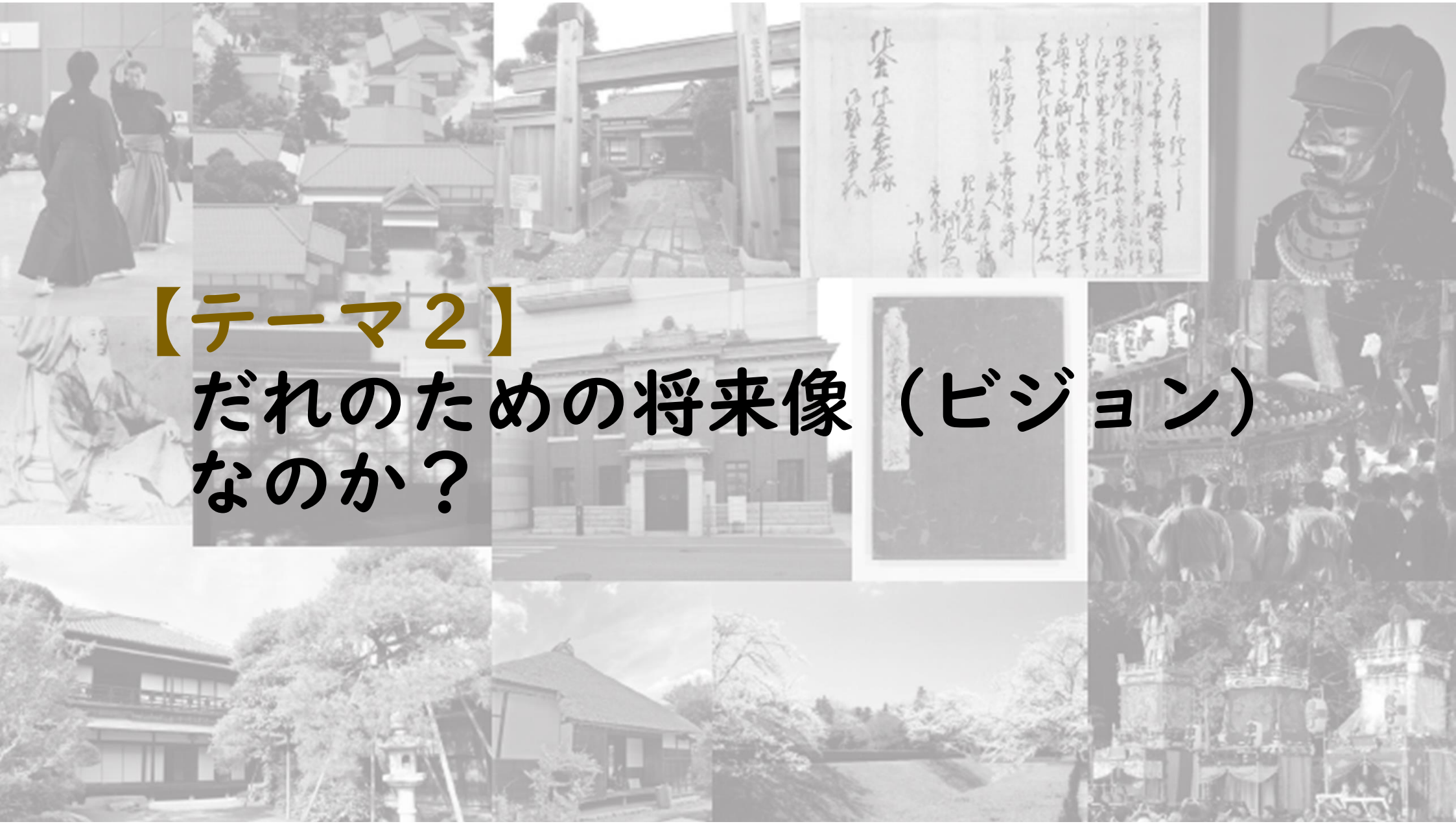
自由な意見交換のために・・・ (模造紙の例)



ワークショップの進め方

2つのテーマについて、次の第1～4ラウンドを通じて意見交換を行います。

ラウンド	内容	時間
第1ラウンド 『テーマについて探求する』	自己紹介・会話	15分
第2ラウンド 『アイデアを共有し深める』 ①	自己紹介・テーブル紹介・会話	15分
第3ラウンド 『アイデアを共有し深める』 ②	自己紹介・テーブル紹介・会話	15分
第4ラウンド 『集合的な発見の収穫・共有』	全体を（少しだけ）まとめよう	10分



【テーマ2】

だれのための将来像（ビジョン） なのか？

計画における将来像（ビジョン）の位置づけについて

◆将来像（ビジョン）は長期的なスパンで考えるもの

- ・ 計画で位置づける具体的な措置は約10年スパンのものであるが、将来像（ビジョン）については長期的なもの。
- ・ 将来像の実現に今後の約10年でどのように近づくのかが計画内での具体的な措置となる。
- ・ 佐倉市総合計画や教育大綱、教育ビジョンなどの上位計画や県文化財保存活用大綱、佐倉市都市計画マスタープラン、佐倉市観光グランドデザインなどの関連計画との整合・連携を図りつつ設定。

計画における将来像（ビジョン）の位置づけについて

◆他市の事例

- ・ **我孫子市**（保存活用の基本目標）
「ものがたり」を通じた我孫子遺産の磨き上げ
- ・ **常陸大宮市**（地域計画の目的）
市民協働の「郷育」による文化財等地域資源の活用促進と
地域プライドの創造
- ・ **銚子市**
人・モノ・文化が出会う。岬に生きる。
「知れば知るほど好きになる！伝えよう。銚子。」
—ふるさと銚子に誇りと愛着を持ち、自慢したくなるまちへ—

計画における将来像（ビジョン）の位置づけについて

◆文化財を通して市が将来どのような姿でありたいかを検討

- ・ テーマ1で意見交換とした佐倉市の歴史文化の特色・魅力を踏まえ、これらをうまく活かすことができるように検討。
- ・ 現状の課題とともに、歴史文化をとりまく時流がどのようなものになっているのか、それを考慮して検討。

【検討】 だれのための将来像（ビジョン）なのか？

◆将来像（ビジョン）の設定にあたって、次の2点から検討

①「だれ」のために

②その相手がどうなっていて欲しいか

この2点を別紙の「シート②」にご記入ください。

* 記入にあたっては、先の佐倉の歴史文化や、次にまとめる文化財保護にかかわる課題の概要を参考にしてください。

【検討】だれのための将来像（ビジョン）なのか？

① 「だれ」のために

→計画でうたわれる将来像が誰のためのものなのか？
ターゲットを明確にしたい。

訴えかけるべき相手は誰か？を
地域・世代・志向など様々な属性から検討する。

【市民】 →どの地区？どの世代？何を好む市民か？

【次世代】 →年齢層、小学生？中学生？高校生？大学生？

【検討】 だれのための将来像（ビジョン）なのか？

① 「だれ」のために

→あまり細かく設定しすぎても、限られた少ない層に
広く捉えすぎても焦点がぼやけてしまう。

相手が将来どのような姿になっていて欲しいのか、
それとの関係性と結び付けて考える。

【検討】 だれのための将来像（ビジョン）なのか？

② その相手がどうなっていて欲しいか

→ ターゲットが将来的にどのような状態になっているのかが将来像の設定・実現につながる。

ターゲットとならない層は将来像や具体的な措置の枠組みから外れてしまうわけではない。

様々な人々・層が、ターゲットとなる層とどのように関わり合うのかを考え、地域全体での文化財の保護に取り組むことになる。

【参考】佐倉市の文化財保護にかかわる課題

◆把握・調査研究に関する課題

- 調査から一定の期間が経過し、現状把握がなされていない。
⇒追跡調査の必要がある。
- これまでの調査は文化財の時期や分野によって偏りがある。
⇒未調査の文化財の把握のための調査の継続・充実が必要。
- 地域の文化財の掘り起こしは、地域の実情をよく知る住民や市民団体等の協力を得ながら進めていくことが重要となるが、地域と行政、あるいは地域間での協力や連携にばらつきがある
⇒市民等とともに調査等に取り組むための体制の構築が求められる。

【参考】佐倉市の文化財保護にかかわる課題

◆保存管理に関する課題

- 保存修理等は都度の対応が主であり、所有者への支援等を含めて計画的な保存管理のための体制や仕組みが整えられていない。
- 文化財収蔵施設の老朽化がすすんでいる。収蔵スペースも限界。
⇒適切な環境下で保管できる収蔵施設の確保が必要
- 未指定等文化財は、所有者や地域自らによる保存管理に追うところが大きく、指定文化財のように保存に対する制度的な裏付けがないため、滅失や破壊の危機にあるものが一定数存在することが予想される。
⇒地域や専門家等を含めた多様な担い手が連携して取り組む必要があり
そのために有効な手法、体制や仕組みを構築していく必要がある。

【参考】佐倉市の文化財保護にかかわる課題

◆防災・防犯に関する課題

- ・近年、世界規模で異常気象や自然災害が頻発化・激甚化する傾向にあることから、今後想定される風水害や地震等に対する防災対策の充実が求められる。
- ・建造物の耐震化、防災設備の設置・更新等、被害を最小限に留めるための対策が十分でなく、また、災害発生時の対応が予め定められていない（マニュアル化されていない）
- ・地域において守るべき文化財を、地域住民が把握できていない。
⇒行政、所有者、地域等が災害の危険性を共有し、連携して対策に取り組む体制を確立していく必要がある。

【参考】佐倉市の文化財保護にかかわる課題

◆活用・情報発信に関する課題

- ・本市の歴史文化の多様な価値や魅力について、一部の市民には熱烈に支持されているが、幅広く市民や来訪者等に十分に理解・共有されていない面がある。
- ・若い世代の歴史・文化への関心が低い。（相対的に？）
- ・市の歴史や文化を網羅した博物館・資料館等の展示施設がない。文化財の展示公開等に関わる機能が脆弱。市民や来訪者が本市の歴史文化を学び、情報発信を受ける機会が不十分。

【参考】佐倉市の文化財保護にかかわる課題

◆活用・情報発信に関する課題

- ・個人や寺社所有の指定文化財の公開のための仕組みや環境が整っていない。市民が文化財に直接的に触れ、親しみを抱いて様々な活用に向けた行動を起こすことにつながる機会を十分に提供できていない。
- ・複数の文化財を結び付けた総合的な保存・活用の取組が行われていないため、保存・活用の対象としている文化財が限定的になっている。
- ・文化財の保存活用が、その地域の活性化やまちづくりに活かすところまで発展していない。
- ・文化財を回遊するための交通手段が不足している。

【参考】佐倉市の文化財保護にかかわる課題

◆担い手の確保・継承に関する課題

- ・ 少子化、高齢化によって、建造物の管理や祭礼・民俗行事の継続が難しくなりつつある。
- ・ 市外からの転入者や子どもたちが、伝統行事など日常的に歴史文化に触れる機会が減少している。
- ・ コロナ禍で各種活動が制限され、人や地域のつながりの希薄化がより進行。地域の祭りや風習など、生活に根差した文化を体感し、継承していく機会や意義が損なわれつつある。

【参考】佐倉市の文化財保護にかかわる課題

◆保存と活用の組織、体制に関する課題

- ・文化財の保存・活用に関する主体は、行政・所有者・地域・民間・市民団体等、専門家等と多岐にわたるが、相互の連携が十分でなく活動が重複する、未対応のまま取り残される等の事態が生じる。
- ・檀家や氏子の減少、文化財所有者の高齢化など、自己負担金の確保が困難な状況が危惧される。
- ・文化財を観光や地域活性化に活かすというような、文化財が有する潜在的な可能性がうまく引き出されていない。
- ・様々な文化財があり、各々必要な専門知識が異なる。

ワークショップの進め方

先の検討と同じく、第1～4ラウンドを通じて意見交換を行います。

ラウンド	内容	時間
第1ラウンド 『テーマについて探求する』	自己紹介・会話	15分
第2ラウンド 『アイデアを共有し深める』 ①	自己紹介・テーブル紹介・会話	15分
第3ラウンド 『アイデアを共有し深める』 ②	自己紹介・テーブル紹介・会話	15分
第4ラウンド 『集合的な発見の収穫・共有』	全体を（少しだけ）まとめよう	10分